

都市在住モンゴル人女性のオーラルヒストリー (6) マヌ

サランゲレル

児玉香菜子

本テキストは内蒙古自治区（以下、内モンゴル）ヒンガン¹（興安）盟²ホルチン（科尔沁）右翼中旗³出身で北京在住女性、マヌさんのオーラルヒストリーである（写真1）。中華人民共和国成立以後の生活と北京でのモンゴル料理レストラン経営、新型コロナウイルス（COVID-19、以下新型コロナ）の対応について伝えてくれる。



写真1 マヌさん（2023年8月撮影）

はじめに

マヌさんはヒンガン盟ホルチン右翼中旗出身で、ホルチン右翼中旗はホーチン・トシャート旗と名高いです。マヌさんはトシャート旗のオラーンムチルでおよそ30年仕事をし、有名な歌手の称号をもつ舞台女優でした（写真2, 3）。マヌさんの家族は皆芸術活動家と言ってよいです。夫は演奏家、息子もまた歌手で、ピアノ専門家、演奏家という多才な芸術家です。娘もまた芸術学院のピアノ

¹ 本テキストのモンゴル語表記はホルチン方言に準ずる。

² 内モンゴル自治区の行政区画。自治区と旗の中間に位置する。

³ 内モンゴル自治区での行政区の名で、中国の行政単位の県（县）に相当する。

講師です。マヌさんは1995年に仕事を退職し、1997年に北京に来て自営業をはじめました。北京に来て、中央民族大学近郊にレストランを開いたのです。マヌさんは伝統的なモンゴル料理を作り、各地から来て学び、研究している学生や教員、内外の研究者から高い支持をうけています。言うまでもなく、北京で学んでいるさまざまな大学のモンゴル人学生が家庭料理や故郷のミルクティが恋しい時にはいつもマヌさんが経営するモンゴル料理レストランに来て、モンゴル料理を食べ、故郷の家に帰ったように感じます。



写真2 オラームチルの公演で漫才劇を演じるマヌさん。1986年撮影⁴。



写真3 オラームチルの公演で独唱中のマヌさん。1986年撮影⁵。

⁴ マヌさん提供。

⁵ マヌさん提供。

サラングレルと児玉は3回聞き取りをしました⁶。第1回の聞き取りで「タリーン・モンゴルアイ」という名前のマヌさんが経営しているモンゴル料理レストランにわたしたちが行くと、白い丸顔の、歯並びのよい典型的なモンゴル美人のマヌさんが朝のお茶を飲んでいました。マヌさんは美しい目で微笑み、手をあげ、手招きしました。丸顔で微笑みながら話すのは本当に舞台芸術家で歌手だった人の活力を示していました。マヌさんはわたしたちにモンゴルのミルクティ、ウルム（クリーム）、アーロール（チーズ類）をごちそうしながら、インタビューを受けました。マヌさん家族は北京とフフホトにすでに定住し生活しています。2人の子どもはともに家族とフフホトで仕事を得て暮らしています。「孫たちがモンゴル語を忘れるのを心配して、夫は息子と娘をフフホトに就職させました」とマヌさんは話しています。ユーモアあふれるマヌさんの語りはとても楽しく、あっという間に時間がすぎました。

—こんにちは、わたしたちは少し聞き取りしたいです。大丈夫ですか。

だめということがあるでしょうか。でも、わたしに分かることがありますかね。

—わたしたちにご自分の口述史、生まれ故郷、幼いころの興味深い話、きょうだい親戚、仕事、お子さんのことについて話してくれますか。遠慮せずに話してください。

では、話しましょう。わたしの名前はマヌと言います。マヌチェチェグと言っていました。しかし、今はマヌと呼ばれています。今はマヌで通っています。亥年です。1947年生まれで、今年72歳（2018年⁷）です。故郷は内モンゴル、ヒンガン盟ホルチン（科尔沁）右翼中旗です。本来はトシャート旗と言いました。先祖はボルギジン姓です。

わたしの父方の祖父は4人きょうだいでした。その4人きょうだいの一番下がトシャート王爺⁸の書記でした。そのため、わたしたちは王侯貴族になります。当時、わたしたちの家族はタイジ⁹階級でした。わたしの母方の祖父はメイレン¹⁰階級でした。そのため、この2家族は親戚になったので、皆富裕な貴族になりました。わたしの祖父は1956年に殺されました。ホルガ・メイレンという名前

⁶ 2018年9月23日にマヌさんに初めて聞き取りし、サラングレルが2018年12月13日に2回目の聞き取りをした。さらに、コロナ禍が落ち着いた2023年8月22日にサラングレルと児玉で3回目の聞き取りをした。サラングレルがモンゴル語に書き起こし、児玉が日本語に翻訳した。一部、3回目の聞き取りについては児玉が直接日本語に書き起こしている。日本語訳は年代順にあわせて編集している。

⁷ コロナ禍をへて、2023年には77歳。

⁸ 王爺は王族、親王の意。

⁹ チンギス・ハーンの子孫の称号で、清の朝廷から与えられる封爵。

¹⁰ 官職で、満州語では旗兵隊の最高統領という意味（包2016：262）。

でした。わたしの父方の祖父の 4 人のきょうだいの子どもたちの中で一番年下がわたしの父でした。文字をよく勉強しました。また、日本語もよく勉強していました。当時、トシャート王府で日本語を教えている女性教師が 1 人いました。そこで、わたしの両親は日本語を勉強していました。わたしの母はその日本語の先生についてよく話していました。裁縫を教えるそうです。生け花を教えるそうです。そして、文字を教えるそうです。裕福な貴族たちの子どもたち数人にも教えていたそうです。その先生はのちに北京で生活したそうです。1983 年に母は日本語の先生に会うために北京に行き、先生と会ってきたそうです。その先生をととても懐かしんでいました。その日本語の先生の名前を何と言ったのでしょうか、わたしは覚えていません。わたしのおばの子どもたちは分かります。母は存命です。今年 92 歳（2018 年）です¹¹。その日本人の先生は母に包桂芳という名前を付けました。母の幼いときの名前はツァガンバガナと言います。母は生まれてきたとき、真っ白な顔のかわいい娘だったそうです。それで、ツァガンバガナ¹²という名前を付けたそうです。

父の名前はグンサンと言いました。その日本語の先生は父に薄喜明という中国語名をつけていました。父は当時、日本語ができたので、日本人の通訳を手伝う仕事をしていました。それがのちの革命のときに罪の一つになりました。「日本のスパイ」という帽子をかぶらせ闘争する際、一般の人は何がスパイというのかも分からないので、

「日本の 6 匹の犬を打倒しよう」

と叫んでいました。しかし、父がどのようなスパイになるというのでしょうか。モンゴル人で日本語が分かるので、モンゴル人と日本人の間の通訳になり、手伝っていただけですよ。

「罪を白状しなさい」

と言っても、父は何を話すでしょう？

「ないです」

「分かりません」

と言うと、

「おまえはうそをついているな」

¹¹ 2023 年の聞き取りで、2019 年の旧暦 1 月 18 日に亡くなったとのことである。

¹² モンゴル語で、ツァガンが白の意。

と言って殴ります。背の高い帽子をかぶせられ、迫害します。わたしの父は大変な苦勞を味わいました。父は「三反¹³五反¹⁴」、「四清運動¹⁵」、どちらも批判闘争されました。土地改革¹⁶が1947年に始まりました。金持ちたちの畑、家畜の群れすべてを没収して貧乏人に分配しました。わたしたち家族はすべての財産、家畜の群れ、去勢ウマの群れ、ヒツジの群れを没収されました。着ていた服以外は保管していたものをすべて没収していきました。それで貧乏になりました。のちに戻ってきていません。当時の考え方では金持ち貴族がどのように金持ちになったのかというと、貧しい平民たちを搾取して金持ちになったと考えていたので、金持ちたちの財産を没収して貧しい人たちに分け与えるのを、貧しい人たちのものを返してあげるといったことだった、とわたしは最も単純に理解しています。それで父は土地改革のあとに、その村の人民教師（中国語で民辦教師）¹⁷になりました。わたしのタラ村には数戸、おそらく5、6戸ありました。父はモンゴル語、中国語、日本語が分かります。当時、文字を知る人は少なかったので、父を人民教師にしました。そうでなければ、金持ち貴族が先生をしてはいけなんでしょうね。当時、文盲を一掃していたので、文字の分かる人を教師にして文字を教えていました。のちに70、80歳の人たちが父を「先生、先生」と呼んでいましたよ。当時、文字を学んでいた学生がいました。両親が結婚する前、両家ともに家畜の群れがあり、農地をもち、裕福な家族でした。しかし、のちに父が旗中心¹⁸で仕事をもつようになったために、家畜、農地をもってはいけなくなりました。幹部は農地と家畜の群れをもってはいけません。土地改革の前は、30、40人もいる大家族でした。

父は金持ち貴族で、日本のスパイなどいくつかの帽子をかぶり、前後17年間罪を着せられていました。のちに、共産党の恩情で名誉回復しました。それで、わたしの父は「劉少奇と一緒に名誉回復されました」

と話していました。思うに、劉少奇が名誉回復された年に父も名誉回復されました¹⁹。それでこのような冗談を話していたようです。父は1956年から旗の文化衛生局長として働いていました。のちに

¹³ 党と政と軍の汚職、浪費、官僚主義の3つに反対して起こされた綱紀肅清運動。1951年10月の人民政協会議第3回全国委員会で決定され、12月から翌52年6月まで全国的に展開された。

¹⁴ 贈収賄、脱税、国有資材の横領、仕事および資材の手ぬきごまかし、国家経済情報の盗洩など、すなわち五毒に反対し、その是正を要求する商工業界に対する肅清運動。三反とともに1951年10月人民政協会議第3回全国委員会で定められた。

¹⁵ 政治・思想・組織・経済を清めること。社会主義の成果を正しく維持し発展せしめるために1962年から66年にかけて展開された社会主義教育運動。

¹⁶ 土地改革についてはフスレ（2011）に詳しい。

¹⁷ サランゲレル・児玉（2021）によるオユンゲレルも人民教師であった。

¹⁸ 旗人民政府所在地。

¹⁹ 劉少奇（1898～1969）は中国の政治家で、1980年に名誉回復されている。

打倒されましたが、共産党の政策のおかげで、父の名誉は回復され仕事に復帰し、旗の政治協商会議の主席になりました。そうして旗中心に住んでいて、亡くなりました。父はグンサンという名前で、1924年生まれです。父は1984年3月20日に60歳で亡くなりました。父が亡くなって40年になります。母は1926年生まれです。元気です。92歳（2018年当時）です。母の実家はウジウムチンです。去年の2017年にウジウムチンの文化局の1人が「ホルガ・メイレンの娘が存命だそうです」と母のところに来て、いろいろ尋ねていったそうです。母は今、高齢になり、物忘れし、認知症になりました。しかし、ゆっくり話していると時おり思い出します。母は旗中心にいます。わたしの2人の妹が介護しています。わたしが行っても認識しません。

私の母方の祖父はメイレンでした。1956年に亡くなりました。ホルガ・メイレンと呼ばれていました。トシャート旗の最期の王爺だったサヤジャブという人はわたしの母の兄です。旗誌にそれについての記録があります。祖父の写真もその本にあります。北京の方家胡同72号の家とその庭はおじのサヤジャブの家でしたよ。トシャート旗の最期の王府だったそうです。それで、80年代に政策を実行するというので、母の兄のサヤジャブの子どもたちがその王府の家屋をもらおうと交渉するために北京に来ました。そのとき、北京でその日本語教師を探し出しました。

わたしは1947年9月16日に生まれました。わたしはのちに父のノートを見て誕生日を知りました。その前、わたしは全く知りませんでした。父は私の誕生日をノートに記録していました。しかし、陰暦で記していました。

わたしたちは5人きょうだいです。2人の弟と2人の妹がいます。わたしが一番上です。上の弟の名前はウルンバトと言います。ウルンバトの幼名はバージンです。出生時に8斤²⁰両²¹（4350グラム）もの体重で生まれたそうです。そのため、祖母が

「バージンという名前をつけましょう」

とモンゴル語でナイムンジン²²というのを中国語でバージン²³と訳して名前を付けたそうです。

「7両は訳さないことになってしまい、完全ではないので、わたしは今も金持ちになることができません。祖母が7両に加えてジュウジン²⁴（9斤）と名前を付けていたらどんなに良かったらう」と弟はこのように冗談を言っています。ウルンバトという名は日本語の先生がつけたそうです。

わたしは幼い時、歌が得意でした。ホルチン民謡を歌います。若い頃、私の髪はとても美しく長かったです。歌も上手に歌います。しかし、家庭の出身が悪く、富裕な貴族の娘ということで、どん

²⁰ 1斤は500グラム。

²¹ 1両は50グラム。

²² ナヤンはモンゴル語で8の意。ジンはモンゴル語で500グラムの意。

²³ バーは中国語で8の意。ジンは中国語で斤、500グラムの意。

²⁴ ジュウは中国語で9の意。

な仕事にも就くことができませんでした。1979年にわたしは32歳でようやく歌手としてオラームチルに入り仕事をえました。わたしが若い時に歌っていたおかげで政策が変わった後にわたしを名指ししてオラームチルの歌手として採用したそうです。わたしの旗の旗長が

「とても上手に歌を歌う娘がいましたよね。彼女を見つけ出してきてオラームチルの歌手にしよう」

と命じたそうです。それで、歌手になりました。そうでなければ、若いとき、出身が悪かったためにどこにも行くことが許されませんでした。学校さえも入学できませんでした。そのため、義両親の故郷に1968年に知識青年として田舎に行き、のちに人民教師になりました。わたしの義両親は貧農でした。わたしの義父が周囲にお願いして、わたしを人民教師にしました。わたしはそこで9年間人民教師をしました。そして、ある日車が来ました。わたしをオラームチルに採用しますとやってきました。それでわたしは32歳で、2人の子どもを連れて、オラームチルに入り、歌を歌いました。退職するまで歌を歌っていました。

出身が悪く、富裕な貴族だったとわたしたちを黒七類に含みました。黒七類には王侯貴族、地主、富農、反革命分子、走資派²⁵などが入ります。わたしは1965年に中学校を卒業しました。若いとき、中国語が分かりませんでした。中学校に入ってようやく勉強しました。中国語はあまりできず、北京に来て習得しました。中国語を初めて習った授業は「共産党は素晴らしい」で、2回目の授業は「6月1日の児童節²⁶」という随筆でした。当時、中国語の授業を校長が教えます。わたしたちのヒンガン盟にはモンゴル人が最も集中しています。そのため、モンゴル語がよく分かります。オラームチルにいるとき、全員モンゴル人でした。すべての演目はすべてモンゴル語でおこないます。当時の学生たちは中国語がよく分かりませんでした。中学校に入学してから中国語を勉強します。わたしは中学校を卒業してから、3年間無職で、家にいました。というのは、金持ちの子どもなので、どのような仕事も分配されませんでした。高校に通う権利もありません。労働者、農民、軍人の中から選抜され大学入学を申請する資格もありません。夫は貧牧、貧農の子どもになります。本来、わたしも遠大な目標をもって勉強してきました。中学校を卒業して高校に入ります。高校を卒業して大学に入ることを期待していました。わたしは勉強が得意です。算数が特に得意でした。しかし、出身が悪いために、どこにも行くことができませんでした。のちに、1968年に知識青年として田舎に行きました。旗の辺境のソムになるバローン・ジャリム・ソムに行かせられました。わたしは旗の初めての知識青年13人のうちの1人です。1968年8月13日に田舎に行ったのをわたしは覚えています。13日だったようです。のちに、党の政策を貫徹し、わたしたちの名誉を回復するとき、仕

²⁵ 資本主義の道を歩む実権派の意。

²⁶ 国際児童節。1949年、国際民主婦人連盟の提唱で6月1日が国際児童節に指定された。中国では1950年から実施。

事を分配する際に、わたしが仕事をしていた期間を 1968 年から仕事を始めたとしました。党の恩情は素晴らしいです。バロードジャリム・ソムに知識青年として行き、そこで夫と知り合い、1969 年 11 月にわたしたち 2 人は結婚しました。夫の名前はゲレルトです。貧農の息子です。わたしの夫はバージルガー・ソム、ジャハーハダ・バグ²⁷の人です。バー²⁸の山という山があり、その山の名前からバージルガーと名付けたそうです。バージルガー・ソムはバーの山の南側にあります。夫が私と結婚するときに、わたしは黒七類で、出身が悪い人でした。黒七類なので、わたしを娶る人はいませんでした。当時、わたしはすでに 24 歳でした。当時すでに行き遅れた娘になります。わたしは夫に「おまえさんは貧農出身の人ですから、わたしと一緒にするのはだめですよ」

と言うと、

「私は恐れません」

と言いました。それで夫の同級生たち、友人たち、知り合いたちは

「おまえは貧農の子どもなのに、黒幫²⁹と結婚したら、一緒に罪人になるのですよ。罪人になるのを恐れないのですか」

などとやめさせようとしたのを、わたしの夫は

「わたしは罪人になるのを恐れません」

と言ったそうです。当時、わたしからしたら、茶碗一杯分食えることができれば十分でした。当時は給料も与えません。1ヶ月1人分の食費を与えます。残りの給料を与えません。わたしたち家族は父母とわたしたち7人でしたから、食べ物を得ることがとても困難でした。わたしの夫と義両親はわたしを黒七類と嫌悪しませんでした。そのようにして、わたしたちは結婚しました。義理の家族は貧農でした。田舎の農民の家族でした。畑を耕します。ブタを飼育します。ニワトリを飼います。山に行き薪を背負います。わたしはどれも経験しました。土地を開墾し、犁を握るなどの仕事を全部しました。わたしたちの2人の子どもが幼いとき、わたしたちは義両親と一緒に暮らしていました。わたしたちが働いているときは義両親が2人の子どもをみていました。のちに、わたしたちが義両親の面倒を見て、2人ともわたしの手の中で亡くなりました。義父は86歳で成仏しました。義母は78歳で成仏しました。とても困難な時代に、わたしの義両親2人はわたしを黒七類の悪い奴と蔑むことなく、温かい家族に迎え入れてくれたので、わたしはいつも感謝していました。今は時代がよくなりました。党のおかげで幸せです。

²⁷ 内モンゴルの旧行政単位。今のガチャに相当する。ガチャは内モンゴル自治区行政区の名で、中国の村に相当する。

²⁸ バヤン山のバヤンを短くしてバーと呼んでいる。

²⁹ 反動組織、犯罪組織の意。出身が悪い人をこのように呼んで政治的に打倒の対象とした。

わたしたちの義父はオランハタのハラチン人でした。義父は幼年のころから独りで貧しく何もなくて本当に貧しい中、成長した人でした。7歳のときに、義父の父が亡くなりました。それで、生活のすべがなくなり、義父の母は息子（義父）を連れて、村の付近の乞食になり、家々をまわっているうちに、義父の父の姉（義父の母からみると亡夫の姉）の家に着きました。そこで、おばは甥（義父）を残したけれども、弟嫁（義父の母）を追い出しました。義父の母は引き続き家々を手伝って歩く乞食をして、2年後に、義父が9歳の時に、寒い冬に凍死したそうです。それで、おばは義父を寺院に連れて行き、ラマにしました。寺院に7、8年いて、16、17歳のときに義父は寺院から出て、手伝いをし、肉体労働をし、命をつないでいました。そうしているうちに、わたしのトシャート旗に来て、居を定めて生活したそうです。他の家の家畜を放牧し、どんな仕事もして命をつないでいました。そうしているうちに、義母の家に着き雇われました。義母の実家もまた金持ちの家でした。地主でした。それで、義父は乞食をし義母の家で仕事をしているうちに見込まれて、娘と一緒にになりました。義父母の2人は結婚し、義父は48歳で一人の息子に恵まれました。わたしの夫のゲレルトになります。夫には姉が1人、弟が1人います。1995年に義姉はすでに亡くなっています。義弟は今年（2018年）亡くなりました。

わたしたち夫婦には息子が1人と娘が1人います。息子の名前はトルゴールと言います。息子のトルゴールは1992年に「リンデンバンド（零点楽隊）」というバンドを結成し、北京に来ました。息子はそのバンドを最初に結成した人物です。当時、リンデンバンドとテンゲル³⁰のボルダ・チョノー（蒼狼楽隊）³¹というのはとても有名でしたよ。

わたしは1995年に仕事を退職し、1997年に息子について北京に来ました。北京に来てすでに21年になります（2018年現在）。北京にやってきたのはわたしの息子が1992年に北京に来ていたからです。わたしたちは旗中心に住んでいました。ちょうどそのとき、退職する年になりました。何をしましょう。そのとき、息子が

「北京に来て、小さなレストランを開いてはどうでしょう」

と言いました。当時、息子はテンゲルと一緒にでしたが、北京にいるモンゴル人たちはモンゴル料理レストランがなく、モンゴル料理を食べることができませんでした。そこで小さなテーブルが4つ、個室1つだけのレストランを開きました。今の中央民族歌舞団、中央民族大学のそばです。魏公村³²では初めてのモンゴル料理レストランでした。本当にたくさんの方が来て、食事をとりました。当時、北京にモンゴル料理レストランがあったのかどうか分かりません。おそらくなかったでしょう。

³⁰ 中国語表記は騰格尔、テンゲルはモンゴル人で、著名な歌手。

³¹ 1993年にテンゲルによって結成されたバンド。

³² 北京市海淀区に位置する。

わたしが 52 歳で初めて北京にやってくる時もっていたのはたったの 6 千円でした。飲食店を営まなければ、生活は厳しかったです。ちょうど 1997 年当時、娘婿はフフホトにある内モンゴル食品会社人力資源管理科で仕事をしていましたが、失業しました。失業して家で何をしましょう。それで、1997 年に婿も北京と一緒に呼びよせました。婿はそのとき包丁を握ることもできませんでした。今は素晴らしい料理人になりました。わたしたち 3 人でレストランを開きました。すべてわたしたちの家庭料理です。夫が得意なのはさまざまな楽器の演奏です。野菜について何も知りませんでした。ある日、

「お前さん、急いで野菜市場に行って、白菜を買ってきてください」

と言いました。何を買ってきたかというレタスです。

当時の小さいレストランの家賃は年 6 万円でした。その家賃を支払うために、著名な歌手のデデマーさん³³から息子がお金を借りました。息子と関係がよかったです。他の人から借りていません。当時、家賃は安かったです。開業する前に、準備したお金はすべてなくなりました。

「あれまあ、どうしよう」

とわたしが言うと、息子は

「開店すれば、お金は入ってきます」

と言いました。わたしたちは単純ですね。1 年後にすべて返済しました。

飲食店を営む 30 年ぐらいのうちの 20 年ぐらいはすべてレストラン内で寝ていました。別の家を買えませんでした。しかし、10 年ぐらい前に国から規定が出て、飲食店を営む際に経営者などは営む飲食店内に寝泊まりしてはならないと制定しました。それで、わたしたちは魏公村に家を買いました。わたしたちは国の政策を守るだけでなく、慣習をよく守っています。お金は必要であるけれども、お金のために規則を破ってはいけません。

北京に来た当初、中国語を話すことができませんでした。その後、こんなに長い時間暮らしたので、中国語は上手になりました。北京に来ていろいろなことを学びました。モンゴル料理レストランでは自分が知っているものを出しています。別のレストランで学んだということはありません。わたしたちはホルチン料理を人びとに美味しく味わってほしいのですべての料理を自分たちで作っています。外から学んで作ったものはほとんどありません。ヒツジを屠殺しどのように解体するのか、どの肉をどのように食べるのかをまさにそのように作り、モンゴル人の家庭料理を作り味わってもらおうという、このような考えでやってきました。

わたしたちのこのレストランは 4 軒目になります。4 回場所を変えています。そんなに大きくなく、5 つのテーブルがあります。言うまでもなく、中央民族大学から離れません。この大学の近くで 4 回

³³ 中国語表記は徳徳瑪。

場所をかえて経営しています。レストランの名前は「トルゴール³⁴レストラン」、「トト³⁵」、「タリーン・モンゴルアイル³⁶」など何回か名前を変えています。少しずつ私たちのレストランは大きくなっていきました。

学生たちが来て、特にモンゴル人学生たちがお酒を飲みに来たら、罵ります。学生たちにお酒を飲ませません。

「お父さん、お母さんが汗水流して手に入れたお金でお前たち、お酒を飲むのですか。おまえさんたちがおなかをすかしているなら、ただでご飯を出してもよいです。でも、おまえさんたちが酔うほどお酒を飲むなら、わたしは認めません」

これら学生たちは今子どもをもつようになりましたが、彼らはここに来てお酒を飲むのを怖がります。あのおばあさんは怖いですよ、怖いですと。モンゴル料理レストランにチベット人も来ます。漢人はあまり来ません。ある日、3人のチベット人が来ました。大きくなった子どもを連れてきて、言いました。

「おばさんの話を聞いてとてもよかったです。当時、わたしたちにお酒を飲まさず、帰しました。別のレストランではわたしのそばについて酒を飲ませます。やはり、おばさんが正しいです」

他のレストランでは学生からお金を取ろうとします。ラサからわざわざわたしに会いに来てくれました。

ある人は

「ありがとう、おばさん。わたしたち子どもや学生への教育を手伝ってくれてありがとう」と言いましたよ。

わたしたちのレストランには中央民族大学、北京理工大学、北京交通大学の先生たち、学生たちが来ます。これらの学生たち皆知っています。これまで来てくれていたこれらの子どもたちを考えると、わたしには100人以上の息子がいることになります。

今(2018年)、嫁の病気が重い病気にかかったために、息子は家で嫁の世話をすると同時に、自分で作曲したり、楽器を演奏したりなど芸術関係の仕事をしています。息子のトルゴールは戌年で、1969年生まれ、今年49歳(2018年現在)です。内モンゴル師範大学芸術学院のピアノ科で学び、1985年に卒業しました。わずか16才でした。そのまま大学に残り、6年間教師をし、仕事を辞めました。そして、バンドを結成しました。2人の子どもがいます。上は娘で、父と同じく戌年で、2006年生まれ、13歳です。フフホトにある私立のヤールン(姪倫)芸術学校に入りました。今、2年生です。ピアノが得意なので、その学校に入学しました。嫁が重い病気になったので、早く自立しよ

³⁴ モンゴル語で、息子の名前に由来する。

³⁵ トルゴールを短くしてトトとした。

³⁶ モンゴル語で、草原のモンゴル家族の意。

うと準備してその学校に入ったのです。下の息子は自分の母と同じ卯年で、2011 年生まれ、まだ 8 歳です。嫁は卯年で（1975 年生まれ）、今年 44 歳です。乳がんになり、乳房を切除しました。そして、6 年後にその病気は他の部位に転移しました。重い病気にかかってすでに 10 年になります。今年（2018 年）、骨に転移したそうです。それで、化学療法をして、髪の毛がすべて抜けました。月に 1 度北京に来て、中日友好病院で診てもらい治療を受けます。月に 1 回注射をします。1 回打つのに 2 万円かかります。海外から輸入した薬の注射です。なので、今、お金を使って寿命をのばしていると言えます。お金は重要ではなく、人の命が重要でしょう。4 年、その注射をしています。しかし、去年（2017 年）からその薬が保険適用になりました。それで、大丈夫です。月に 1 度、検査をし、1 回注射をします。半年に 1 回全身を検査します。2 年に 1 回全身を細かく検査します。嫁の心情は大丈夫です。心配して悲観している様子はありません。わたしもよく話して聞かせています。人は生まれたら必ず亡くなります。寿命というのは単に長いか短いかだけです。

「自分が過ごしやすいようにしてください」

とわたしは話して聞かせました。また、占い師が言ったそうです。

「病気を隠してはいけません。誰か聞く人がいれば、話しなさい。そうするとよいです」

と。わたしたちは本来隠しません。病気を隠してどうしますか。嫁も病気を隠していません。息子のトルゴールは 2 人の子どもをフフホトの学校に通わせようとフフホトに行きました。そのため、フフホトに家を買って、2 人の子どもはフフホトで勉強しています。

娘はサロールと言います。子年で、1972 年生まれです。今、フフホトの芸術学院で教員をしています。ピアノの先生です。その芸術学院は本来内モンゴル大学付属でした。今は分かれて独立した学院になりました。わたしの 2 人の子どもはどちらもピアノを勉強しました。夫は弦楽器に才能があります。わたしたち 2 人はオラナムチルで働いていました。わたしの夫は胡琴を演奏します。わたしは歌を歌います。わたしの 2 人の子どもはどちらもピアノを学び、卒業し、学校に残り、先生をしていました。娘は今も芸術学院で教員をしています。

わたしの娘のサロールはやはり 2 人の娘がいます。サロールの上の娘は寅年で、1998 年生まれです。今、中央民族大学の美術学部で勉強しています。今年（2018 年）、学部 3 年生です。20 歳です。下の娘は母と同じ子年で、2008 年生まれです。わたしの孫は全部で 4 人います。わたしの家族はこのようなのです。

わたしの弟のウルンバトもまた北京に来て飲食店を経営していました。「ヒンガン・モンゴル・アイル」というモンゴル料理レストランがあったでしょう。ボロルの父です。わたしの上の弟ですよ。ボロルを知っていますか。ボロルはわたしの弟ウルンバトの子どもです。その飲食店をするのをやめて、今北京で他の仕事をしています。弟の子どもをボロルと言います。子どもの学校関係の仕事をしています。書道を教えるなどです。ある先生と協力してやっています。うまく経営しています。ち

ようど入ってきたのはわたしの妹ですよ。今、旗中心で仕事をしています。妹も知識青年として地方に行きました。

—この食堂を経営していますか。賃貸ですか。年間いくらですか³⁷。

そうです。わたしが経営しています。このレストランの家賃は年間 24 万元です。それで、料理を作って稼いだお金から家賃を払うと、たった 10 万元だけ残ります。大金持ちになることはできません。このレストランを経営しないと、わたしたちはここで生活できません。わたしたちの年金では何もできませんよ。わたしたち 2 人の年金は年 4000 円で、あわせて年 8000 元です。このレストランの仕事を自分たちですべてします。人を雇いません。そのため、自分で事業を苦勞して進めていけば、お金が入ります。そのため、大きな苦惱はありません。往々にして商売をするときに、一番能力がない商売人がレストランをすると言うものです。わたしたちには少しも大きな財産はありません。そのため、自分たちの力で苦勞をして働いて手に入るのは元手だけです。気持ちを込める必要があります。お客に美味しく食べてもらうことができるように心を込めて作ります。食材を自分で手に入れます。肉を内モンゴルから入手します。それは高いです。しかし、祖先から伝わってきた伝統的な食の味をかえないように保つ必要があります。ここ北京の肉は美味しくないです。必ず内モンゴルから肉を入手しないといけません。弟が手伝っています。わたしたちは先祖からの継承してきたホルチンモンゴル料理を作ります。高齢の方にはスープ料理を作ります。若い人には固めに調整して作ります。両親に作っていた味です。年上の方にお椀をどのように渡すかで相手に尊敬を示す習慣があります。

—歌手だった時に、どの歌を歌うのが一番好きでしたか。オルティーンドー³⁸（長唄）を歌っていましたか。

たくさん美しい歌があります。皆、東北の民謡です。わたしはオルティーンドーを歌うことはできません。「シショワ・メイレン（Shishuai Meerin；希帥梅林）」という民謡があります。「シショ・メイレン」という呼ぶ人もいます。また、アルタンチェチェグ・ハトンの歌とも言います。シショワ・メイレンの妻はアルタンチェチェグといいます。まず、アルタンチェチェグ・ハトンの夫が歌います。シショワ・メイレンは軍隊に戻ってから家を恋しく思って歌います。

雨が降っています

³⁷ 2018 年に聞き取りしたとき、マヌさんのモンゴル料理レストランは中央民族大学の職員宿舎区内にあった。

³⁸ モンゴル語で長い歌の意。

アー ハイ メイレン ホー
樹の茂みの下で雨宿り
恋しく思う気持ちを
盃と一緒に飲み込んで
アー ハイ メイレン ホー
なだめます

アルタンチェェグ・ハトンは夫を励まして歌っています。

岩のように硬い意志で
進んでください
アー ハイ メイレン ホー
飛んでくる矢を避けて進んでください
飛んできた矢を避けた後に
アー ハイ メイレン ホー
たくさんのモンゴル人を守ってください

—ありがとうございます。このように話したことを日本語もしくは英語で雑誌に発表してもよいですか。

よいです。よいです。発表してください。しかし、わたしが話したことで発表するようなことがありますか。

2023年8月22日に再び聞き取りしたとき、かなり大きな変化がありました。レストランの場所が変わっていました。大学の敷地内から大学の外の新しい建物の3階に移転していました。レストランの内装はさらに美しくなっていました。中は広々としています。残念なことに、わたしたちが聞き取りに行ったときにはちょうどこのレストランをまた移転しているときでした。

—この新しい場所のレストランは本当に美しいですね。このような内装は高いですか。家賃は高いですか。この新しいレストランはいつ開店しましたか。どのような事情で今移転しているのですか。

はじめから話しましょう。コロナ禍になり、大学構内に人が入れなくなったために、わたしたちは仕方なく2020年12月に「タリーン・モンゴルアイル」というレストランを閉めました。もう一つの原因は2019年6月に嫁が亡くなりました。長年患っていましたが、45歳という若さで亡くな

ってしまいました。2人の子どもは孤児になりました。今、上は16歳、高校2年生です（2023年現在）。下は12歳で、今度中学生になります。ガンになり、12年です。お金がかかり、亡くなりました。

嫁は話していました。

「お義母さんたちに恨みはありません。お義母さんたちはよく世話してくれました」と。わずか45歳です。

2人の孫がフフホトで勉強していたので、孫に付き添うために、わたしたちは北京のレストランを閉めて、フフホトに行き、小さなレストランを出しました。新型コロナの状況が落ち着いているときに、中央民族大学の美術学部の知り合いの学生たちからウィーチャット（WeChat）³⁹がきて、「おばさん、北京に来てください。わたしたちはおばさんの料理が恋しいです」と言います。それで、この新しい建物に部屋を借りて、レストランをまた開くことになりました。家賃は年間134万元です。ここの大家は旧野菜市場など6つの法人からなります。1日の家賃は6500元です。また、改装費に200万元かかりました。大変な力を尽くし、多額のお金を使って改修して、2023年2月8日にレストランを開店しました。しかし、場所の問題から事業はうまくいきませんでした。ちょうどその時、中央民族大学の新しい場所である豊台区にレストランを開店する広い土地が見つかったので、移転しているところです。今日午後6時までには必ず引っ越すように言われています。今度の新しいレストランは1000㎡あまりの広さがあるにもかかわらず、家賃は年50余万元です。ここは300㎡あまりです。内装に時間がかかるために、最初の3か月は家賃を取らないとしました。今、内装工事をしているところです。あなたたちが次に来るときにはわたしたちは豊台区にいます。今回、ちょうど移転しているところです。申し訳ないです。

ーコロナ禍のとき、どのようでしたか。苦勞しましたか。

コロナ禍ではレストランは閉めていました。営業させません。2020年10月か12月からです。当時、レストランは構内にありました。構内に人を出入りさせません。政策では最低3ヶ月、最大半年の家賃を免除します、と国家が言うのは素晴らしいです。しかし、どこにあるでしょうか。結局、支払います。ここの家賃はとても高いです。1年で134万元です。家賃だけです。水道代、電気代、ガス代、人件費、業務管理費、衛生費など、今のレストランはあらゆる費用が求められます。国家からの補助金はありませんでした。それで、営業できなくなりました。これまでで成功しなかったのはこのレストランだけです。

ーコロナ禍の間、フードデリバリーをしましたか。

³⁹ 中国語で微信（ウェイシン）。中国で開発されたメッセージングアプリで、広く使われている。

していました。餓了麼⁴⁰と美团⁴¹どちらもしました。儲けになりませんでした。モンゴル料理は採算がとれません。モンゴル料理は食材の経費がかかります。シリングルからヒツジ肉と牛肉を買い入れます。北京の肉は美味しくありません。わたしも食べたくありません。匂いがあります。やはり草原の肉がよいです。肉など仕入れ代が高いです。フードデリバリーでは、美团ならそこにお金を払います。配送員の費用もかかります。残りはわずかです。むしろ損をします。

ある日、ポーズを作って、外に売りに歩いたこともあります。ある人がやってきて、誰か分かりません。見ると知人でした。その人は

「あなたのポーズを全部買います。二度と外に出てはいけません」

と言いました。3 日目にその人に会い、売り歩くのをやめました。2022 年の開業できないときです。他の人がしているのから学びました。

—新型コロナにかかりましたか。

わたしは 2 回新型コロナにかかりました。2022 年に北京でモンゴル料理レストランをしているときです。つらかったです。発熱は半日でした。病院には行きませんでした。イブプロフェン（布洛芬）⁴²を 2 錠飲んでよくなりました。1 回目、わたしたち家族は全員新型コロナにかかりました。はじめに婿がかかり、次にわたしがかり、わたしの次に 2 人の孫がかかりました。最後に夫がかかりました。夫は熱が出て、薬を飲みました。2 回目のときは 2023 年 3 月です。のどが痛く、咳がでただけで、熱は出ませんでした。どこでかかったのか分かりません。

2 人の孫は今大きくなりました。下の子は 12 歳で、中学校に入りました。2 人ともモンゴル語ができます。当時、嫁がいたので、フフホトに行きました。今、北京に連れてきました。子どもたちを英語と中国語のバイリンガル学校に通わせています。授業はすべて英語で、中国語の通訳がいます。新東方という学校です。学費はとても高いです。年間 1 人 20 万元です。2 人で 40 万元です。わたしは息子に言いました。

「孫娘は大丈夫です。高校 2 年生ですから。孫息子をわたしの実家に連れていきましょう」

しかし、孫息子は同意しませんでした。孫はまだ 12 歳ですから、分かりません。来年わたしが連れていきます。ここで過ごさせません。その学校の学費は高すぎです。先生はすべて外国の先生です。

娘、サロールの娘は中央民族大学美術学部の絵画の専門を卒業し、去年の 2022 年に日本に行き、勉強しています。どこにいるのか分かりません。おそらく東京でしょう。来年から働きます。

⁴⁰ 中国の食配サービスアプリ。配送者を通じてレストランの食事を注文者に配達している。

⁴¹ 店舗についての口コミを掲載し、その情報を活用したフードデリバリーサービスを展開。

⁴² 鎮痛薬

おわりに

5年後の2023年に再会したときに、マヌさんの外見に大きな変化はありませんでした。レストランの引っ越しが重なり、とても多忙だったにもかかわらず、わたしたちをとてもうれしそうに迎えてくれました。時間が原因で、十分に聞き取りすることができませんでした。マヌさんからホルチンモンゴルの飲食について、料理、肴の名称、味、栄養について、料理、食べ物、お茶飲み物の種類、準備の方法、盛り付けの習慣などのいくつかの蓄積されてきた知識を深く学ぶことができませんでした。そのため、わたしたちは次の聞き取りの際にはマヌさんの熟練した飲食について、あらゆる専門知識を詳しく専門的に記録しようと心に決めています。

聞き取り：サランゲレル、児玉香菜子

聞き取り日時：2018年9月23日、2018年12月13日、2023年8月22日

場所：モンゴル料理レストラン、タリーン・モンゴルアイル（北京市）

中央民族大学キャンパス近くのレストラン（北京市）

謝辞

本研究はJSPS科研費17K03274の助成を受けました。マヌさんに心よりお礼を申し上げます。

引用文献

サランゲレル・児玉香菜子（2021）「都市在住モンゴル人女性のオーラルヒストリー（4）オユンゲレル」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』22：77-87.

フスレ（2011）『中国共産党・国民党の対内モンゴル政策：1945-49年：民族主義運動と国家建設との相克』風響社

包宝海（2016）「草の根社会におけるガーダー・メイレンの記憶と語り」『言語・地域文化研究』22：261-286.

（さらんげれる・中央民族大学中国少数民族語言文学学院／

こだま かなこ・千葉大学人文科学研究院）

An oral history of urban Mongolian woman in China (6) Ms. Manu

Sarengerile

Kanako KODAMA

This text is an oral history of Ms. Manu, born in 1947, who came from the Khorchin Right Wing Middle Banner, Hinggan League, Inner Mongolia, China and now lives in Beijing, the capital of China. This interview was conducted over two major sessions, one in 2018 and the other in 2023, five years later. Therefore, the content regarding changes since 2018 is specifically separated.

Ms. Manu came from a landowner class, and after struggling to make ends meet, she found a job in Ulanmuchiir, a Nei Monggol revolutionary cultural troupe, when she was thirty-two years old and became a singer. Her husband was also a performer in Ulanmuchiir, and their two children were piano teachers. Ms. Manu's family is an artistically talented musical family. She retired when she was fifty years old, and two years later, she and her husband followed their son (who had formed a band and became active in Beijing) to Beijing and the two opened a Mongolian restaurant. Many of the customers of Ms. Manu's Mongolian restaurant are Mongolian students and professors living in Beijing. The restaurant is located near the Minzu University of China, which has a relatively large Mongolian population. Ms. Manu and her husband have gradually expanded the scale of their business and were preparing to open a 1,000 square meter Mongolian restaurant in the Fengtai district, where the new campus of the Minzu University of China is located, in September 2023.

This oral history tells us about the changes in their lives since the establishment of the People's Republic of China, their management of a Mongolian restaurant in Beijing, and their response to the COVID-19 pandemic.